

— 市岡・石田・田中・八幡屋・福崎 —



大阪歴史博物館蔵

こんにちは、桂あさ吉です。22年間港区に住んでおりました。実家は南市岡です。その港区が昔、田んぼだらけだったとは知りませんでした。元禄から江戸時代後期にかけて新田開発が盛んに行われ、その中には市岡、石田、田中、八幡屋、福崎等の新田があります。それぞれ開発者の名前がついておまして、今の港区の地名にもしっかり残っております。

という訳で今回は、港区の新田開発にかかわった御先祖様に登場していただきます。きっと天国から港区を見守ってくれてるはずですよ。

市岡与左衛門 — いやー、しかし港区の様子もだいぶと変わってきましたなあ。

田中又兵衛 — そうでんなあ、わたしが生きてた頃は田んぼだらけでしたけど、今はすっかり変わりましたなあ。

石田三右衛門 — まあでも、昔とは状況が全く違いまっさかいなあ。人口も増えてきたし、見てみなはれ、川の色も違いまっしゃる。

八幡屋忠兵衛 — ほんにそうやなあ、けどうれしいことに、田んぼは無くなっても、我々の名前は残ってますなあ。

福崎孫四郎 — はいはい、市岡さんも、田中さんも、八幡屋さんも、石田さんも、そして私の福崎という名前も…

市岡与左衛門 — それは私も喜んでまんねん、わたしが開発した新田は無くなっても名前はちゃんと残してくれてる。

田中又兵衛 — やっぱり、新田にかかわっただけに、苗字(みょうじ)は残してくれたんやなあ。



おあとがよろしいようで。